

企業・大学訪問 感想文 (②,③について)

私が今回の企業大学・訪問への参加を決めた理由として、第一に、自分が希望した企業へ実際に赴き、現代社会で第一線で活躍されている方と接するまたとない機会になると思ったことが挙げられます。訪問場所は、班内の話し合いの結果、東京医科歯科大学の森尾友宏教授のところとなりました。教授には、今回の訪問を快諾していただいたことを、改めて深く感謝申し上げたいと思います。訪問場所が森尾教授のオフィスに決定したことは、私自身とても嬉しく思いました。なぜなら、森尾教授は専門が小児科であり、私自身が小児科医を目指したいと考えているからです。そのため、森尾教授には是非、小児科に関することについてもお伺いしたいと考えていました。森尾教授の顔は、既にホームページで拝見しており、とても温厚そうな方という印象を持っていました。そして実際にお会いしてみると、やはり温厚な方で、こちらが事前に質問していた事項の説明や、新たな質問への対応も丁寧にしていただきました。

森尾教授は、お話の中で、今後医師を目指す世代にある我々に必要なことを多く示してくださいました。そのうちの一つに、コミュニティが挙げられます。医者は、医学とだけ付き合っていればよいという時代はとうに終わり、他の学問分野との連携も重要になってきています。例えば、実験の重要なデータを機会に落とし込むためには、工学の知識が必要になるため、工学部との共同研究が必要になることもあると、森尾教授からお聞きしました。

私は以前に、医科歯科大学とソニーが、包括連携協定に基づく研究協業拡大・医療研究人財育成などのプログラムを開始したという記事を目にしていたので、森尾教授からそのお話が出たときは、まさにこのことかと思いました。医科歯科大学とソニーが共同研究したものとしては、調べを進める中で、「ゲノム情報解釈アルゴリズム」を知りました。これは、誰でも罹患する可能性のある、生活習慣病やがんなどについて、個人が将来その病気に罹患するリスクを遺伝子の側面から分析して提供する「健康管理ゲノム情報の提供事業」に採用されるようです。私自身、内容が難しく、正確には理解できていませんが、従来技術よりも画期的で、結果により期待が持てるものなのだろうと解釈しています。

ソニーの例からわかるように、共同で研究してくれるコミュニティの存在は大きいと思います。私が二年後の大学受験を乗り切り、無事医学生になれば、何年かかかって、一人で研究を計画できるようになっていることでしょう。そのときは、コミュニティに実際にお会いするなどして、共同研究してくれるコミュニティを探したいと思います。

また私は、ある特定の地域だけで感染が広まっている病気、例を挙げるとすればマラリアなどの研究は、実際に現地で研究するほうがいいのか、という質問をしてみました。すると、森尾教授のお答えはこのようなものでした。『確かに、実際に現地に赴き、患者さんを診て、症例を見て、分かることもある。しかし、今の世の中、日本では、そういった病気を研究できる環境は整っており、日本でも研究は満足にできると思う』。私はこの、森尾教授のお答えを受けて、納得しました。日本の医療技術は、やはり高く、研究したいと思えば日本でできる。しかし一方で、日本にずっととどまるだけではなく、留学などをして一度は日本を飛び出して、海外で患者さんと触れ合うこともしてみたいとも思いました。

私はまだ、何を研究したいかなどのことは現段階では考えられませんが、日本では見られない病気を研究する選択肢もあるかなと思いました。

今回、森尾教授にはお忙しい中、貴重で濃密な時間を提供していただきました。1時間半という時間の中で私は、医学の見方が変わり、将来医師になりたいという気持ちが強くなりました。森尾教授からお聞きできた時間を無駄にすることのないよう、勉学に精進していきたいと思います。

森尾教授のオフィスへ訪問した夜は、仙台二高OB・OGによる座談会が開かれました。仙台二高は、在校生とOB・OGの繋がりが深いと、入学前から聞いていましたが、東京に行って、OB・OGの方々のお話を聞けるとは思ってもいなかったので、とても嬉しかったです。皆さんは、当然東京大学をはじめとする東京の難関大学ご出身、または在学中でした。私は、東京大学に興味はありましたが、志望校にするかはまだ決めかねていたので、この懇談会を一つの指標にして、今後の志望大学決定に役立てたいと考えていました。

1人目の先輩は、東京大学農学部の方でした。私は医学部への進学を希望していますが、東京大学であれば、どの大学も難関であることに変わりはないと思い、限られた時間、先輩のお話をしっかり聞きました。

先輩はまず、受験勉強は、時間より効率とアドバイスをくださいました。私自身、高校受験の時期は、時間をかけるばかりではいけないと塾の講師や学校の先生に言われていました。時間よりは質を大事にしよう。質と効率は、同じことを言っているのでしょうか。短い時間で自分がやろうと思ったことを徹底的に突き詰めて勉強すれば、効率が良いし、質が高いと言われるものです。東京大学へ現役で合格できた先輩がおっしゃるのだから、時間より効率が大事というのはやはり信じていい事実なのだろうと思います。しかし、私にとって、効率を求めた学習というのは、なかなか難しいものでありました。少しでも空いた時間を有効に使いたいという気持ちはあるし、空いた時間ができたときのためにいつも古典の文法書や明説漢文を持ち歩くのですが、やはり時間が空いても勉強せずに過ごしてしまうことが多く、時間ばかり浪費していました。中学生の間はそれで凌いでいたのですが、二高ではそれは通用するわけもなく、2年後の大学受験で全国の猛者を相手に太刀打ちできるわけもないと考えています。先輩の話聞いて、効率に重きを置いた勉強に切り替えられるよう頑張ろうと真剣に考えました。

2人目の先輩は、もともと理系でしたが、途中から文系に変更された方でした。

先輩は、時間の前半部分を使って、自身の世界一周の経験談について話してくださいました。例えば、暗い報道ばかりされるイメージのあるイスラエル。しかし、実際はそんなことはない、先輩が、同い年くらいの学生たちと撮った写真を見せながら語ってくれました。写真に写っているウクライナ人はみんな笑顔でした。メディアが伝えるような悲惨な現場は、ある特定の地域だけであることを物語っていて、その地域の本当の姿というのは、実際に現地を訪れなければわからないということが分かりました。私は、海外に行ったことがないので、お隣の中国の状況さえ、自分の目では見たことがありません。なので、人生の中で1度くらいは、世界に身を置いてみるのもいいのかなと思いました。将来的には、留学もしてみたいです。

そのほかの先輩も、東京大学の魅力や、自分の想いを私たちに伝えてくれました。一人の先輩が、こんなことをおっしゃっていたのを覚えています。『東大を目指せばどこでも行ける』。聞いたときは、なんだかすごいことを仰っているなと思いました。しかし、実際その通りなのだろうなと思います。日本最高峰の東京大学に合格できるような勉強を続けることができたなら、どこの大学でも勝負できるのだろうと思います。

私には、東京大学医学部出身で、現在は自治医科大学で教授の職についている伯父がおり、その人の影響もあってか私は医師を志望しています。その人は、自身の大学受験に向けた勉強について、『時間より質を重視した勉強だった』と語っています。OBの先輩のお話と重なるところがあります。やはり、難関を突破していくためには質、効率を重視するのが大切なのだと気づきました。

今回のOB・OG懇談会で先輩方から得たものは多く、大きいものでした。是非、先輩方からお話を聞ける機会を増やしていただきたいなと感じました。

最後に、今回の2日間の日程を組んでくださった先生方、本当にありがとうございました。

今回得たことをもとに、これからも精進していきたいと思います。